



かつて「妙好人」を訪ねての旅」で、「赤尾道宗」所縁の五箇山の行徳寺に参詣したことがあるが、今、改めて「妙好人」を尋ねてみたいという思いが強くなってきた。

親鸞聖人や蓮如上人は、今の私たちにとっては最も身近に感じられ、また確かな善知識としての確固たる存在であるが、そのお導きに対して、私たちはなかなかと応えられていないのが現実ではなかろうか。教学を説く人は数知れずいるが、本当に仏法に生きている人は、果たしてどれだけいるのだろうか、そんなことがひどく気になるようになってきた。それが「妙好人」に学んでみたいというきっかけとなった。

「妙好人」といわれた人たちは、真宗でしか輩出されていないといわれているが、いったいそれはどうしてなのか。また「妙好人」といわれた人たちはどんな日常生活をしていたのか、お念仏に救われた機縁はどんなことだったのか等々、関心は深まるばかりである。

まだ一步を踏み出したばかりのことであることから、道筋の立てられない歩みとなるだろうが、まずは数多くの「妙好人」を尋ねられた諸先輩方の足跡を頼りに、学んでいけたらと思っている。

後生の一大事。急げ、急げ。そんな呼び声が聞こえてくるような気がしてならない。

妙好人

『妙好人』 鈴木大拙

法蔵館」を参考にさせていただきました。
数回に分けて掲載の予定です。

妙好人 真宗独特のことばで篤信 信心が篤いの人を言う「
妙とは 妙はらうじゆ
妙好とは 運華の美しさをいう

妙好人に共通して言えること

善良親切 脱俗的 信心深い 文盲 読み書きができない

知性」に汚されず、至心」に動かされている。

妙好人の一人、加賀の小松 森 ひなさん 六十歳 昭和二十二年記の歌をご紹介します
子との別れ 奉公のため家を出るにあたり、子を思う情愛から、親の心を口授
つて書き取らせたという。味わってみてください。



光受寺境内に咲いた蓮
(昨年)

○おもひだうしは、きはくせとんや、
うれしあまりに、うたをかく

われでかかれず、わがこにかかす。
ともによるこび、ふとをよぬ。

○おさなうきまゆり、まじりはすたゆ、
なんのきもなく、きこてきた。

われのこころの、なやみのため「
おとらまこころ、ふみだした。

○きげはきくほじ、ありがたうおもひ、
こななおやさまあるものか。

まじる、まじり、こゆ、こいじゆとくす、
しるびのさく、はらまじり。

○われのちからしる、おんおもつた、
そつじやなかつた、おやちから。

たりき、たりきと、おもつていたが、
おもつこころが、みなごころ。

いじゆきらこころ、いじゆきらこころ、
のそまじり、おも、みなごころ。

○こつか、ああかど、はかりつたが、
はかるがでない、ただのただ。

ああ、ありがたい、なむあみだぶつ。

○となへるしょうみよう、われがとおもつた
そつでなかつた、みだのよびいへ、

ああ、ありがたい、なむあみだぶつ。

一部省略

○あみだにようじゆ、おやこになれど、
ときどき、ほんのうが、あつたらん。

ああ、あみだぶつ、なむあみだぶつ。

一部省略

○こやになんやうな、なむあみだぶつ、
いじゆはなれぬ、おやいじゆ。

ああ、ありがたい、なむあみだぶつ。
○あみだにようじゆ、いじゆきらをおへる、

いじゆの、なむあみだぶつ、ひかくわえつじゆ、
ああ、ありがたい、なむあみだぶつ。

「感謝」

大垣市

K.Kさん

「心から感謝して日々を送って来たのだろうか」とわが心に自問するようになったのは主人を亡くしてからである。

八十路迄生かされてきたのに、日々愚痴ばかりを言っていたようだ。ひとりになってから、外出しても「ペダルが踏めてありがとう」とひとり言が口から出てしまう。満開の桜を見ると、あなたは見れないのに私だけ…。果てしない青空を眺めながら、さわやかな春風に身を包まれる幸せを感じる。それを教えてくれたのは主人である。

遺影の前に、どんなにたくさんのお供物を並べても、あなたは眺めることすらできない。孫の大学合格も知らずに行った主人。何を言ってもほほ笑んでいるだけ…。遺影に感謝するのみである。

ありがとう。ありがとう。ありがとう。

住職の感想

ご主人の死を縁として、かつて愚痴ばかり言っていた私ではあったが、今では毎日感謝の思いで暮らせるようになった、というお話のようですね。

「当たり前だと思っていた日常が、実は当たり前でなかったという「気づき」をされたということは、大変に意味深く、尊い事であったと思います。K.Kさんの「ありがとう」の人生が輝いてみえます。

真宗では「気づかされる」ことを、**仏様からの「おはたらき」**として受け止めていくわけですが、ご主人様はまさにこの方にとって「仏さま」であったわけですね。尊いお話でした。ありがとうございました。

さて、ともすると私どもの「感謝」というのは、自分の都合の良いことには感謝はできても、悪い事にはなかなか感謝することはできないもののようです。それだけ自分勝手な思いでしか生きることができない哀れで、悲しい存在なのです。良い悪い、多い少ない等々、人間の尺度でしか量れない狭くて暗い世界でしか生きられない私たちを、仏様は哀れみ、一步外の広大な世界へ導びようと、慈悲の心をもって願いをかけてくださっているのです。そして、そこに応えていくところにこそ、心からの感謝も生まれ、生き生きとした人生が送れると思うのです。

K.Kさんのようにご主人の死をご縁として、明るい人生がおくれるようになりたいものですね。

口頃の思いや、その時々、いくつ自然な気付きをお届けください。歌、詩、俳句、ひょうくち、メロ、どんな内容でも構いませんので、よろしく協力ください。

新聞原稿募集!



あじさい祭り 六月十四日(日)



ミニギャラリーでは
書画を展示中。

ありますが、墨俣のあじさい祭りには合わせお越しいだき楽しんでいただけたらと思います。

見分けのつかない品種もあり、山あじさいを主として、約四十種ほど植樹してあります。



あじさいが咲いています。



これで今年の除夜の鐘は、安心して計画ができています。

完成 手すりも付けていただき、安全できれいに修復していただきました。

今月の学習会・おめでとう

六月十三日(土)

おめでとう

午前七時半

正信偈

弥陀成仏の

六首

第二土曜以外の

日は六時半より

阿弥陀経

学習会(同日)

午後七時より

午後八時半

法話 若院

お文(学友)